ジャウィ文書研究会ニューズレター

第4号　　2002年7月13日

発行者：ジャウィ文書研究会事務局
〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町 7-1　　電話　03-3238-3697 Fax 03-3238-3690
上智大学アジア文化研究所　川島緑研究室　　e-mail: midori-k@sophia.ac.jp

－　目　次　－

I.　研究会予定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.1
II. ジャウィ文書関連の学術雑誌： JSBRAS, JMBRAS の紹介・・西尾寛治・・ p.1
III.研究会記録
　第 11 回研究会(2002.6.22) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.4
IV. 20 世紀前半の東南アジアにおけるアラブ新聞・雑誌・・・新井和広・・・ p.6
V.　ジャウィ文書の研究に有用な辞書の紹介・・・・・・・・ 西尾寛治・・・ p.14
VI. マレーシアおよびシンガポールの本屋案内 ・・・・・・・篠崎香織・・・ p.17

I.研究会予定

7月 13 日（土） 上智大学
9月 29 日（日） 上智大学
　詳細は追ってご連絡いたします。これまで本研究会のご連絡を受け取っていない方で、今後、案内を希望される方は事務局にその旨、ご一報ください。

II. ジャウィ文書関連の学術雑誌：JSBRAS, JMBRASの紹介

西尾寛治（東京女子大学）

　いわゆる「植民地学」が活発化した19世紀から20世紀初期にかけて、ヨーロッパ諸国で自己の植民地を対象とする研究機関の設立が進展した。すなわち、フランスの極東学院（Ecole Francaise d'extreme-Orient）、オランダの王立言地理言語民族学研究所（Koninklijk Instituut voor Taal-, Land- en Volkenkunde, KITLV）、イギリスの王立アジア協会（The Royal Asiatic Society）などである。これらの研究機関が刊行した学術雑誌には、当然ながら、ジャウィ文献の紹介あるいはそれに依拠した研究論文も少なからず掲載されている。したがって、BEFEO（Bulletin de l'Ecole Francaise d'extreme-Orient）、BKIまたはBijdragen（Bijdragen tot de Taal-, Land- en Volkenkunde van het Nederlandsch-Indie)、JSBRAS（Journal of the Straits Branch

of the Royal Asiatic Society）、JMBRAS（Journal of the Malayan/Malaysian Branch of the Royal Asiatic Society）などは、我々がジャウィ文書の研究を進める上で、まずおさえておくべき文献に数えられる。今日、これらの学術雑誌は、アジア経済研究所などの研究機関や東京大学、東京外国語大学、早稲田大学、立教大学、天理大学をはじめとする大学付属図書館でもその多くが閲覧可能である。そこで、以下では、それらの学術雑誌の中から特にJSBRAS、JMBRASを取り上げて紹介してみたい。

王立アジア協会は、アジア地域の歴史、宗教、法制度、慣習、言語、文学、芸術などを研究する目的で、1823年に設立された学会である。イギリスのアジア研究の重要な学会のひとつで、その支部はカルカッタ、ボンベイ、コロンボ、香港、上海などのアジアの各地にもうけられた。それらの支部の多くは現在既に活動を停止している。東南アジアにもうけられた海峡植民地支部もそのひとつだが、その後継者のマラヤ支部は、マレーシア支部と改称されながらも現在なお活動を続けている。ただし、現在のマレーシア支部とイギリスとの関わりは薄く、むしろマレーシアの学会としての性格が強い。

王立アジア協会の学会誌の刊行は1834年に始まるが、海峡植民地支部の学会誌JSBRASの刊行は1878年に始まり、ほぼ年間２回のペースで1922年の第86号まで刊行された。その後1923年から、マラヤ支部（マレーシアの独立を機にマレーシア支部と改称）の学会誌JMBRASがそれにかわって刊行され、現在に至っている。なお、JMBRASは、1963年までは年３、４回刊行されたが、1964年以降は年間２回のペースで刊行され続けている。したがって、これまでに刊行されたJSBRAS及びJMBRASも膨大な数に達する。しかし、心配はご無用。収録論文の検索に便利な下記のようなカタログも出版されている

Lim, Huck Tee and D. E. K. Wijasuriya. 1970. *Index Malaysiana: an Index to the Journal of the Straits Branch of the Royal Asiatic Society and the Journal of the Malayan Branch of the Royal Asiatic Society 1878-1963.* Kuala Lumpur: Malaysian Branch of the Royal Asiatic Society.

D. E. K. Wijasuriya and Lim Huck Tee. 1974. *Index Malaysiana Supplement 1: an Index to the Journal of the Malaysian Branch of the Royal Asiatic Society and the JMBRAS MonogrAphs 1964-1973.* Kuala Lumpur: Malaysian Branch of the Royal Asiatic Society.

D. E. K. Wijasuriya and Lim Huck Tee. 1985. *Index Malaysiana Supplement No. Two: an Index to the Journal of the Malysian Branch of the Royal Asiatic Society and the MBRAS Monographs and Reprints 1974-1983.* Kuala Lumpur: Malaysian Branch of the Royal Asiatic Society.

Straits Branch of the Royal Asiatic Society Contents of Journals No.1 to 86. July 1878 to November 1922. & Malayan & Malaysian Branch of the Royal Asiatic Society Contents of Journals Vol. 1 Part 1, April 1923. to Vol. 53, Part 1 1980.

(このカタログには、編者、刊行年、発行地、発行者の記載はないが、おそらく発行地、発行者は Kuala Lumpur: Malaysian Branch of the Royal Asiatic Society）

したがって、1983 年までのものなら、以上のカタログで検索可能である。なお、以上４つのカタログのうち、最初の３つのカタログ（Index Malaysiana とその Supplement）は、いずれも“Author-Title Index”と“Subject Index”の２つのインデックスを所収している。他方、４番目のカタログでは、ただ各号の目次が順番に並べられているだけである。もっとも、１番目のカタログ（Index Malaysiana）が JSBRAS もカバーしているので、結局すべての JSBRAS と 1983 年までの JMBRAS ならば、その掲載論文へのアクセスは容易である。

筆者の知る範囲では、JSBRAS や JMBRAS に掲載されているジャウィ関連の文献として注目されるのは、ヒカヤット（マレー語の古典文学作品）、スーフィズムやジャウィ表記に関するのものである。こうしたテーマを扱った論文では、しばしばテキスト自体が収録されている。例えば、以下にはジャウィ版のテキストも収録されている。

Raja Ali Haji bin Raja Haji Ahmad (Winstedt, R. O. ed.). 1932. “A History of Riau and Johore (Tuhfat al-Nafis). ” *JMBRAS* 10(2). pp.1-320.

Winstedt, R. O. ed. 1932. “Hikayat Negeri Johor, A History of Johore (1673-ca. 1800 A.D.).” *JMBRAS* 10(1). pp.164-170, 1-31.

Johns, A.H. 1957. “Malay Sufism as Illustrated in an Anonymous Collection of 17th Century.” *JMBRAS* 30(2). pp. 1-111.

また、特に注意を喚起したいのは、JSBRAS や JMBRAS が、マレーシア、シンガポール地域のみならず、インドネシア、ブルネイやその他の東南アジア諸国に関する論文も収録していることである。むろんそうした地域の専門家ではない筆者には、どの程度有用な論文であるか確かなことはいえない。しかし、それゆえに、各地域の専門家諸氏には、自己のテーマに関連した複数のキーワードを駆使して、一度検索してみられることをお勧めする次第である。なお、“Jawi”で検索してみると、以下のような論文がみつかったことを報告して、この稿の結びとしたい。

Winstedt, R.O. 1941. “Jawi Spelling.” *JMBRAS* 19(2). pp. 227-233.

Yahys bin Raja Muhammad Ali. 1923. “Raja Haji. A Set of Alphabet Pantuns.” *JMBRAS* 1(2). pp.308-311.

Zainal Abidin bin Ahmad 1928 “Jawi Spelling.” *JMBRAS* 6(2). pp. 81-104.

Casparis, J. G. de. 1980. “Ahmat Majanuｺs Tomestone at Pengkalan Kempas and its Kawi Inscription.” *JMBRAS* 53(1). pp. 1-22.

III. 研究会記録

第 11 回研究会

日時：2002 年 6 月 22 日（土）10:30-19:30
場所：上智大学四ツ谷キャンパス 9 号館 3 階 357 号室　出席者 14 名
（午前の部出席者：7 名）

１．勉強会「ジャウィ入門」第２回
アラビア文字の伝播の中でのジャウィの位置付け

東長靖（京都大学）

前回、日本語の文章をアラビア文字で表記してみる、という課題が出されたが、その結果をとりまとめ、短母音や長母音、および、アラビア語にない子音や、アラビア語に複数あって、日本語にない音を表現するのに各自がどのような工夫をしたかが紹介された。それらを比較検討することにより、アラビア語とは異なる言語をアラビア文字で書く場合に生じる問題点が明らかにされた。それらの問題点を乗り越える工夫は多様であり、政治権力が伴わないと、標準化や新文字創出は起こりにくいことが示された。そのあと、ペルシア語、オスマン・トルコ語、ウイグル語、マレー語の各言語のアラビア文字表記について比較検討が行われ、マレー語ジャウィ表記は、（１）オスマン・トルコ語アラビア文字表記のややこしさ・伝統重視と、ウイグル語アラビア文字表記の明快さ・伝統破壊の中ぐらいに位置することが指摘された。それらの詳しい内容については、第 3 回ジャウィ文書研究会記録（本ニューズレター第 1 号、pp.9-12 に掲載）参照されたい。＜川島緑＞

２．A Too Simple Introduction of Cham Documents and Cham Jawi in Vietnam.

Shine Toshihiko (Graduate School of Frontier Sciences, The University of Tokyo)

本報告では、ベトナムのチャム人によるチャム語のアラビア語表記をめぐる状況について紹介がなされた。

まず、ベトナムのチャム人についての説明があった。チャンパ王国は 17 世紀にベトナムの攻撃を受け、国王はカンボジアに逃れたが、一部のチャム人貴族がベトナムに留まった。それが今日のチャム人の起源とされる。現在、ベトナムに居住するチャム人の人口は約 13 万人で、主な居住区はベトナム中部と、カンボジアとの国境に近い南部に分かれており、前者を東部チャム人（または中部チャム人）、後者を西部チャム人（または南部チャム人）と呼ぶ。東部チャム人は、Adat Cham あるいは Adat Bani（シーア派の一派？）に従っている。一方、西部チャム人はスンナ派に属し、各村にモスクを持ち、子供達はそこでコーランを学習する。西部チャム人のイスラムは、マレー文化から大きな影響を受けているが、イスラム法に基づく生活の実践は比較的穏やかなものである。いずれのチャム人においても母系制が維持されている。かつては

海上交易が経済活動の中心であったが、チャンパ王国衰退期に農耕社会に転じ、今日の主要産業も稲作である。

チャム語の表記法においては、伝統的な表記とアラビア文字表記がある。前者に関しては、古代に使われた Akhar Rik と、17-20 世紀にかけて行政文書や契約文書などに使用された Akhar Thrah とがある。後者に関しては、Akhar Bani または Akhar Jawa（本報告ではこれを便宜的に Cham Jawi と呼ぶ）などの呼び方がある。Akhar Bani とはそもそもアラビア文字でアラビア語を表記したものを指した。1960 年代以降、西部チャム人のスンナ派が、アラビア文字のみによってチャム語を表記し始め、Akhar Thrah の使用を止めた。チャムとバニ（東部チャム人に属す）は、スンナ派の人々をジャワと呼んでおり、チャム語のアラビア文字表記を Akhar Jawa と呼び始めた。

続いて、アラビア文字表記のチャム語の例が紹介された。一つ目のテキストは、チャム人の小学校（マドラサ・イスラム）において現在使われている教科書に掲載されている詩であった。ここにおいて、チャム語をアラビア文字表記する際、チャム語に独特な音を表記する上で、ベトナム語の発音記号が導入されている例が示された。二つ目のテキストは、チャム人の村で収集された文書で、ハディースを記したものであり、一つ目のテキストとは異なる正字法を使用していることや、マレー語と共通した語彙の存在などが指摘された。最後に、東京修復保存センターによる文献収集の成果の一部に、アラビア文字で表記されたチャム語資料があることが紹介された。

以上の報告に対して、コメンテーターのオマール・ファルーク氏（広島市立大学）、中村理恵氏（トヨタ財団）からそれぞれ以下の質問がなされた。オマール・ファルク氏からは、①ベトナムに存在する考古学的史料を使用すれば、チャンパ王国におけるイスラム伝播の存在が証明され、それは同時に東南アジアへのイスラム伝播に関するこれまでの学説を大きく変えうるものになるが、それについてはどう考えるか、②チャム人のイスラムがシーア派の系統に属すかどうか定かではないとのことだが、碑文史料によればシーア派との関係が深いという説もある、などのコメントがなされた。中村氏からは、①様々な文字表記システムの存在は、チャンパ王国から今日に至るまで、チャム人の政治的統合がなかったことを示す例であり興味深い、②本報告では、様々な地域のチャム人ムスリムを一緒に論じているが、もう少し整理が必要なのではないか、③イスラム伝播に関する Bani 人の史料は存在するか、などのコメントがなされた。

両氏の質問においては、本報告を大きな文脈に位置付けうる興味深い問題提起があったと思われるが、これに対して報告者からはほとんど回答がなかったのが残念であった。また、これに関連して、本日の報告を先行研究に位置付けるとどのような意義があるのかという質問が出され、これに対して報告者は Cham Jawi に関する先行研究は存在しないと回答した。これを受けて、チャム人研究というもう少し大きな枠組みに本研究を位置付けることは可能なのではないかとの質問がなされたが、これに対しても、残念ながら、直接的な答えはなかったように思われる。

チャム人研究における問題点に関して、中村氏から指摘があった。それによると、東部チャム人こそが「真のチャム人」であり、西部チャム人はイスラムを信仰する以外は自らのアイデンティティを忘れた「堕落したチャム人」というイメージが一般化

しているとのことである。これに関して報告者は、貴族層の多い西部チャム人に対し、東部チャム人は、貴族層の考え方は間違っており、西部チャム人はチャム人ではなく、自分達こそがチャム人なのだと主張していることを紹介した。

次にベトナム政府とチャム人との関係についての質問がなされた。報告者はこれに対し、西部チャム人は反共産主義運動に加わらなかったため、ベトナム政府との関係が良好であるとし、自治を求める運動や分離独立運動などはない一方、東部チャム人の中には共産主義に反対なムスリムがおり、分離独立運動もあったと答えた。これに対するベトナム政府の政策は、報告者によれば、反共産主義運動を阻止する方策を採る一方、教育の機会提供などチャム人を優遇する政策を採り、チャム人の取り込みを図っているとのことである。だが、このような優遇措置があるにもかかわらず、西部チャム人は子弟をマドラサに送ることを好み、ベトナム国内の大学に進学する者も少数で、マレーシアなどに留学する傾向があるそうである。政府は 1980 年代以降、チャム人文化の維持を支持する政策を取っており、チャム人固有の文字として Akhar Thrah を認め、1991 年には「チャム人ムスリムに適した文字表記システム」を認めるとの表現により、実質的にアラビア文字表記のチャム語も認めるに至ったとのことである。

国際的なイスラム・ネットワークとベトナムのチャム人との関係についても質問がなされた。報告者によれば、中部において、サウジ・アラビアから資金援助を受けている協会があるとのことである。また中村氏によれば、1995 年以降、サウジ・アラビアがチャム人に資金提供をし、毎年 5-6 人ほどメッカ巡礼に招待しているとのことである。また同氏は、インドネシアやマレーシアからイスラムの教えを説きに来ている人々もおり、チャム人のイスラムにおいてマレーシアの影響が大きいことを指摘した。

Akhar Thrah を使用した文書に関して、契約に使用するとあるが、主に何の契約を指すのかという質問もあった。報告者によれば土地売買がほとんどであるとのことであった。これに対し質問者から、土地売買というのは大陸部東南アジアの特徴であり、島嶼部ではそれに関する文書がほとんど存在しないことが指摘された。＜篠崎香織＞

３．ジャウィ・テキスト"Al Munir"講読

レジュメ作成担当者：菅原由美（東京外国語大学大学院）
西芳実（東京大学大学院）

これまでと同様の方法で、第 1 号 2 ページ 23 行目から 3 ページ 24 行目までの講読を行った。

IV. 20 世紀前半の東南アジアにおけるアラブ新聞・雑誌

新井和広（ミシガン大学大学院）

序言

20 世紀前半の東南アジアでは、主にバタヴィア、スラバヤ、シンガポールを中心に、少なくとも 53 種類のアラブ新聞・雑誌が発行されていた。そのほとんどはアラビア語

で書かれていたが、マレー語（インドネシア語）、ジャウィで書かれたものも少数あった。それらの刊行物は全体として、当時の東南アジアにおけるアラブ・コミュニティーの状況を知らせる重要な史料である。しかし、近年までこれらの定期刊行物が本格的に利用されてきたとは言い難い。その理由は、東南アジアのアラブ移民についての研究がほとんどなされてこなかったことの他に、まとまった資料がどこにあるのかが十分に知られていなかったことである。シンガポールで発行されたアラブ新聞・雑誌に関しては、ウイリアム・ロフ (William Roff) によって 1970 年代にすでにリストにされていたが、インドネシア側の史料もモビニ-ケシェー (Mobini-Kesheh) によって 1996 年にリストが作成され、利用しやすい状態になった。本稿では、上記 2 つの業績を基に、アラブ新聞・雑誌のリストと、各地での発行状況の表を作成し、これらの定期刊行物が出版された背景、資料としての価値について述べる。

1.「アラブ新聞・雑誌」とは？

ここでまず、本稿で扱う定期刊行物群の定義を考えてみたい。アラブ新聞・雑誌とは、アラビア語で書かれたものを必ずしも意味するものではない。20 世紀前半の蘭領東インドでは、アラブ移民のほかに、イスラーム関連の宗教団体がアラビア語で出版活動を行っていた。これらの出版物は、アラビア語で書かれてはいるものの、当時のアラブ・コミュニティーの動向とは関係がない。また、アラブ人がその編集に深く関わっていた新聞もあるが、これらは特にアラブ人に向けて書かれたものではない。よって本稿ではアラブ新聞・雑誌を、「東南アジア在住のアラブ人が、自身のコミュニティーに向けて、主にアラビア語で執筆した定期刊行物」と定義する。

ジャウィの定義を仮に、「アラビア文字で記述された東南アジアの言語」とするならば、中東の言語であるアラビア語はその範疇には入らない。しかし、アラブ新聞・雑誌が、アラブ・コミュニティー内部に向けられたものであったとは言え、東南アジア独特の文脈の中で出版されたものであることから考えても、本研究会で紹介する意義はじゅうぶんあるものと考える[1]。

2. 出版の背景

アラブ新聞・雑誌は、20 世紀前半の東南アジアにおけるアラブ・コミュニティーの状況を背景として出版された。東南アジア在住のアラブ系住民は、そのほとんどが、南アラビアのハドラマウト地方から移民してきた人々の子孫である。ハドラマウトは厳しい自然条件に加え、18 世紀以降、部族間の抗争が激化し、多数の移民をインド洋世界に送り出した。東南アジアのイスラム圏（現在のマレーシア、シンガポール、インドネシア、フィリピン南部など）はその中でも最も重要な移住先であった。ハドラマウトの人々は移民した後も本国とのつながりをある程度維持し、経済的に成功した者はハドラマウトでモスク、学校、道路等を建設した。

モビニ-ケシェーによると、20 世紀前半の東南アジアにおけるアラブ・コミュニテ

[1] しかし、Al-Hudā (Batavia) など、宗教関係の雑誌は当然のことながら、対象とする民族は定まっていない。

ィーは、「ハドラミーの覚醒」と言われる状況にあった。同じ移民である華人コミュニティーの発展に触発され、1901年にはバタヴィアにジャマイーヤ・ハイル(Jam'iyya Khayr: 慈善団体) という団体が設立され、そこに付属する学校で教えるため、中東から教師が招聘されたりした。このような活動はバタヴィアだけではなく、スラバヤ、ソロなど、他の都市でも見られた。モビニ-ケシェーはこの時期のアラブの活動の特徴として、慈善団体の設立、近代教育を施す学校の設立に加えて、自らの主張を広めるための出版活動の3つを挙げている[2]。

このアラブ・コミュニティーは1910年頃から2つの派に分かれ、激しい議論を行った。いわゆる「サイイドーイルシャード (Sayyid-Irshad) 論争」と呼ばれている問題である。サイイドとは預言者ムハンマドの子孫と言われる人々で、独特の結婚規定などを持っていた。上記のジャマイーヤ・ハイルは主にサイイドが中心となって設立された団体であった。この団体の学校で教鞭をとっていたスーダン人、アフマド・アル=スルカティー (Ahmad al-Sūrkattī) はジャマイーヤ・ハイルと袂を分かち、1914年に自ら「改革と導きのためのアラブ人団体(イルシャード)」と呼ばれる団体をバタヴィアで結成した。これ以降、サイイドとイルシャードのメンバーによる議論は、1920年代終わりまでアラブ・コミュニティーの主要な議論となった。1930年代になると、サイイドーイルシャード論争は沈静化し、その代わりに彼らはインドネシア人なのか、それともハドラミーなのかという議論が活発となる。そして、自らをインドネシア人であるとみなす団体が設立され、その団体による出版活動が行われた[3]。

このように、東南アジアのアラブ・コミュニティーにとって雑誌・新聞は、特定の団体の主張を発信するための媒体として機能していた面が大きい。

3. アラブ新聞・雑誌

上で述べた通り、アラブ新聞・雑誌は全53タイトルが確認されているが、これはロフと モビニ-ケシェーがリストにしたものである。これらの他にもまだ研究者に知られていないものが存在する可能性もあるが、筆者が知る限りではまだ見つかっていない。また、リストされたものの中でも、*Al-Madrasa* [Pekalongan][4]、*Al-Haqq* [Bogor]、*Al-Tawhīd* [Bogor] など、存在は確認されて[5]いるが所在不明のものもある。このような資料に関しては、アラブ・コミュニティーの有力メンバーを訪ねるなどして収集するしかないであろう。現在知られている53タイトルの中で、マレー語で書かれたものは数点あるが、その中でジャウィで表記されているのは一点だけである。今後の収集で新しいものが見つかるかもしれないと思うと楽しみである。

これらのアラブ新聞・雑誌はいくつかのタイプに分類できる。まずは、特定の団体の主張を広めるために出版されたものである。これは、イルシャードとサイイドが出版していたものがその代表であるが、内容としては、お互いに対する批判の他は、ア

---

[2] Mobini-Kesheh 1999, p. 34.

[3] Mobini-Kesheh 1999, pp. 128-149. 20世紀前半の蘭領東インドにおけるアラブ・コミュニティーに関しては、Mobini-Kesheh 1999, de Jonge 1997, Haikal 1986, van der Kroef 1953 参照。

[4] [ ]内は発行地を示す。以下同様。

[5] これらの刊行物が存在していたということは、他の刊行物中にその名前が現れることから分かる。

ラブ・コミュニティーの近代化の必要性、教育の重要性を唱えるものであり、その点では二つの団体は目的を共有していたと言える。もうひとつの重要な団体は、PAI (Persatoean Arab Indonesia：インドネシア・アラブ協会, 後に Partai Arab Indonesia：インドネシア・アラブ党) など、インドネシアを祖国とみなす団体である。これらの団体の出版物は、マレー語で書かれたものが多かった。その他にも、特にどこの団体の影響も受けていないもの、宗教（イスラーム）に関係するもの、東南アジア在住のアラブから特定の運動への支持をとりつける目的で発行されたものなどがあった。

アラブ新聞・雑誌は、東南アジア在住のアラブに対して、ハドラマウトに関する情報を提供するという役目も持っていた。これは、最新の政治・経済状況から、ハドラマウトの歴史、文学の紹介まで広範囲にわたっている。おそらく、東南アジアで生まれた世代のアイデンティティーを保持する目的で書かれたものではないだろうかと思われる。またハドラマウトの他でも、パレスチナを始めとするアラブ各国の状況も報告されている。更に、*Al-Hudā*［Singapore］などでは、世界の情勢についても説明されている。

4. イギリスの対応

東南アジアで発行されたアラブ新聞・雑誌は、アデン、またはハドラマウトの港町、ムカッラーの英国当局にとって、必ずしも喜ばしいものではなかった。その理由が、それらの刊行物が、ハドラマウトの状況に関して誤った知識を与え、英国の当地での施策を悪意に解釈している (と英国当局が考えていた) ことによる。ハドラマウトに駐在していたイギリス官吏イングラムス(W.H. Ingrams) は、ハドラマウトの状況を書いたパンフレットを定期的に作り、東南アジアのアラブ有力者に配布することを提案した。しかし、これは結局実行されなかったようである。

5. 資料としての位置付け

さて、このようなアラブ新聞・雑誌であるが、どのような資料的価値があるのだろうか。まず、20 世紀前半の東南アジアにおけるアラブ・コミュニティーを研究するための第一級の史料であることは言うまでもない。アラビア語で書かれた、ハドラマウトに関する文書資料には 2 種類ある。ひとつはワーディー・ハドラマウトの中心都市、サイウーンの博物館に収められている、旧カスィーリー (Al-Kathiri) 王国関係の文書である。もうひとつは、ワーディーの文芸・学術活動の中心であるタリームの金曜モスクに付随する図書館 (Maktaba al-Ahqāf) にある写本である[6]。これらの写本は聖者伝、偉人伝、詩集、年代記などであるが、年代記を除くと歴史資料としての価値は乏しいと言わざるをえない。その点、ハドラマウトの社会情勢、特にハドラミー自身の視点から見た状況が書かれている点で、東南アジアのアラブ新聞・雑誌は非常に貴重な資料であると言える[7]。

結論

[6] ハドラマウト関係の写本に関しては、 Serjeant 1950 参照。

[7] 他の資料としては、タリームで出版されていた Al-Ittihad, Al-Halaba, Al-Ikha などの手書き・石版刷りの新聞などもあるが、入手は難しい。

アラブ新聞・雑誌は、全体として当時の東南アジアにおけるアラブ・コミュニティーの状況を反映する貴重な資料であると言える。しかし、発行元が、ある特定の団体・有力者などであることが多く、各誌/紙の背景を考慮することが非常に重要である。いずれにせよ、アラブ新聞・雑誌を網羅的に扱った研究は少なく、今後の更なる利用が待たれる。

参考文献

Berg, L. W. C. van den, 1886, *Le Hadhramout et les Colonies Arabes dans l' Archipel Indien*. Batavia: Imprimerie du Gouvernement.

Bujra, Abdalla S, 1971, The Politics of Stratification: A Study of Political Change in a South Arabian Town. Oxford: Clarendon Press.

Freitag, Ulrike and Clarence-Smith, W. G. eds, 1997, Hadhrami Traders, Scholars, and Statesmen in the Indian Ocean, 1750s-1960s. Leiden: Brill.

Haikal, Husain, 1986, "Indonesia-Arab dalam Pergerakan Kemerdekaan Indonesia (1900-1942)," Unpublished Ph. D. Thesis, University of Indonesia, Jakarta.

Jonge, Huub de, 1997, "Dutch Colonial Policy Pertaining to Hadhrami Immigrants," in Ulrike Freitag and W. G. Clarence-Smith eds. *Hadhrami Traders, Scholars, and Statesmen in the Indian Ocean, 1750s-1960s.* Leiden: Brill, pp. 94-111.

Kroef, J.M. van der, 1953, "The Arabs in Indonesia," *Middle East Journal.* 7;3, pp. 300-323.

Mobini-Kesheh, Natalie, 1996, "The Arab Periodicals of the Netherlands East Indies, 1914-1942," *Bijdragen tot de Taal-, Land- en Volkenkunde* 152-I, pp. 236-256.

________, 1999 The Hadrami Awakening: Community and Identity in the Netherlands East Indies, 1900-1942. Ithaca, NY: Cornell University Press.

Perpustakaan Nasional, no date, *Katalog Majalah Terbitan Indonesia, Koleksi Perpustakaan Nasional, Kumulasi 1779-1980.* Jakarta: Perpustakaan Nasional, Departemen Pendidikan dan Kebudayaan.

________, no date, *Katalog Surat Kabar, Koleksi Perpustakaan Nasional 1810-1984.* Edisi Revisi. Jakarta: Perpustakaan Nasional, Departemen Pendidikan dan Kebudayaan.

Roff, William R, 1972, Bibliography of Malay and Arabic Periodicals Published in the Straits Settlements and Peninsular Malay States 1876-1941, London: Oxford University Press.

Serjeant, Robert Bertram, 1950, "Materials for South Arabian History," I & II, *Bulletin of the School of Oriental and African Studies*, xiii, pp. 281-307, 581-601.

（編集部注：本稿は2002年1月20日開催第7回ジャウィ文書研究会での報告の要約である。）

V.　ジャウィ文書の研究に有用な辞書の紹介

西尾寛治（東京女子大学）

ジャウィ文書の研究にとって、マレー語の辞書は必携の参考書である。とはいえ、出版されているマレー語の辞書は実に多種多様であり、また、同系統の言語とはいえ、マレーシア語とインドネシア語の間にはかなりの言葉の相違も存在する。したがって、我々は、辞書の選択に際して十分な注意を払う必要がある。以下では、ジャウィ文書の研究に有用と思われるいくつかの辞書について、「マレーシア語の辞書」「インドネシア語の辞書」「ジャウィ表記を含む辞書」に分けて紹介してみたい。なお、[　] は初版の出版年を意味する。

１．マレーシア語辞書

Lutfi Abas and Awang Sariyan. 1988. *Dwibahasa Kamus Pelajar Delta.* Petaling Jaya: Pustaka Delta Pelajaran.

ページ数・サイズ：816pp+, 14X21.5cm

マレー語の初心者に有用な「マレーシア語＝英語」辞書のひとつである。それぞれの単語には、英訳、平易なマレーシア語訳と例文が付されている。動詞は、原形に続いて接頭辞や接尾辞のついた形が載せられているが、そのそれぞれに関しても、上記のような順で説明が付されている。なお、挿絵による説明もあり、また略号や専門用語のマレー語訳のセクションもある。

Tan, Ta Sen. 1994 [1980]. *Kamus Am Terbaru Bahasa Malaysia: Malaysia-Tionghua-Inggeris.* (Edisi Tambahan). Kuala Lumpur: Pustaka Umum.

ページ数・サイズ：980pp, 20cm

「マレーシア語＝中国語、英語」辞書として一般的なものである。漢字表記の中国語が使用されているので、日本人にとってはマレーシア語の意味を理解する上でひじょうに有用である。マレー語中級者以上向けの辞書である。

Kamus Perdana: Bahasa Melayu-Bahasa Cina-Bahasa Inggeris. 1999. Seri Kembangan (Selangor): United Publishing House.

ページ数・サイズ：1833pp+, 13.5X21.5cm

上記と同様の「マレーシア語＝中国語、英語」辞書である。各単語には、平易なマレーシア語訳、漢字表記の中国語訳と英訳が付され、例文も載せられている。上記の辞書よりもすぐれているのは、収録されている語彙の豊富な点である。約 40,000 語の見出し語が収録され、そのそれぞれについて接頭辞や接尾辞のついた形もカヴァーしている。また、マレーシアの称号や役所などの略号もカヴァーされている。ソフトカヴァー版とハードカヴァー版とが出版されているが、若干分厚いのでハードカヴァー版の方が使いやすい。マレー語中級者以上向けの辞書である。

Kamus Dewan. (3rd. edition). 1994. Kuala Lumpur: Dewan Bahasa dan Pustaka.
ページ数・サイズ：1559pp+, 14.5X22cm
「マレーシア語＝マレーシア語」辞書の中でもっともすぐれたもの。古語、方言、インドネシアのマレー語（インドネシア語）もカヴァーしている。借用語も明示され、収録されている例文も豊富である。マレー語上級者向けの辞書といえよう。

Wilkinson, R. J. 1932. *A Malay-English Dictionary (Romanized).* 2vols. Mytilene: Salavopoulos and Kinderlis
ページ数・サイズ：Part 1(A-k, 613pp+), Part2 (L-Z, 657pp+), 22X30cm
マレー研究の先駆者のひとりであるイギリス人植民地官僚 R. J. ウィルキンソンが編集した「マレー語＝英語」辞書。「マレー語＝英語」辞書の中で、おそらくもっともすぐれたもの。特徴としては、語源が明示されていること、用例が充実していることなどがあげられる。特に用例は、マレー語古典文学作品群からの引用も多く、歴史資料の解読にはかなり有用である。なお、この辞書の再販として、下記のようなものがある。
Wilkinson, R. J. 1943. *A Malay-English dictionary : (Romanized).* 2vols. Tokyo: Daitoa Syuppan.
Wilkinson, R. J. 1959. *A Malay-English dictionary (Romanized).* 2vols. London: Macmillan.

２．インドネシア語辞書

Echols, John E. and Hassan Shadily. 1989 [1963]. *An Indonesian-English Dictionary (3rd Edition).* Jakarta: Penerblit PT Gramedia Pustaka Utama.
ページ数・サイズ：431pp, 14X22cm
「インドネシア語＝英語」辞書の中で定評のあるもの。中級者以上向けの辞書。

Kamus Besar Bahasa Indonesia.(2nd edition). 1996 [1988]. Jakarta: Balai Pustaka
ページ数・サイズ：1255pp, 18.5X24.5cm
「インドネシア語＝インドネシア語」辞書の中で定評のあるもの。語彙数は豊富で、地方語、借用語、マレーシアのマレー語（マレーシア語）も収録されている。ただし、文字が小さいのでやや読みにくい。

３．ジャウィ表記を含む辞書

ジャウィの表記は、時代や地域によって若干相違する。したがって、扱う文献資料とできるだけ編集の時期･地域の近い辞書を選択する方がよいと考えられる。そこで、以下に紹介するマレー語辞書については、編者についても若干言及しておく。

Marsden, William 1984 [1812]. *A Dictionary and Grammar of the Malayan Language.* 2 vols. Singapore: Oxford University Press.
ページ数・サイズ：vol. 1 (589pp+), 21X29cm

18 世紀末期スマトラ東海岸のベンクーレンでの勤務経験を有し、大著『スマトラ史』（The history of Sumatra）の著者として有名なイギリス人マルスデンが編集した「マレー語（ジャウィ表記、ローマ字表記）＝英語」辞書。全２巻のうち、第１巻が辞書で、第２巻はマレー語の文法書である。単語は「ジャウィのアルファベット」順に配列されている。なお、復刻版の第１巻のイントロダクションでは、ラッセル・ジョーンズ（Russel Jones）が、16-19 世紀におけるヨーロッパ人のマレー語辞書編集の略史を記している。他方、マルスデン自身が記した第２巻のイントロダクションは、「マレー語」「ジャウィ」「マレー人」などの概念に関する貴重な歴史資料のひとつである。

Wilkinson, R. J. 1903. *A Malay English Dictionary.* Singapore: Kelly & Walsh

ページ数・サイズ：717pp+, 26X31cm

19-20 世紀にマレー半島で勤務したイギリス人植民地官僚 R. J. ウィルキンソンが編集した「マレー語（ローマ字表記、ジャウィ表記）＝英語」辞書。上で紹介したのウィルキンソンの「マレー語（ローマ字表記）＝英語」辞書同様、マレー語古典文学作品や格言からの豊富な引用により、単語の用例が示されている。方言（シンガポールやオランダ領東インドの方言も含む）も収録され、また借用語も明示されている。なお、上記のマルスデンの辞書とは対照的に、単語の配列はローマ字のアルファベット順であり、ローマ字表記の索引もついている。

Wilkinson, R. J. 1985. *Kamus-Jawi-Melayu-Inggeris: A Classic Jawi-Malay-English Dictionary, Manuskrip Klasik.* Melaka: Penerbit Baharudinjoha. Alai.

ページ数・サイズ：717pp+, 24X30cm

上記の R. J. ウィルキンソンの辞書の復刻版である。

Kinkert, H. C. 1947 [1930]. *Niew Maleisch-Nederlandsch Woordenboek Met Arabisch Karakter naar de beste en laste bronnen Bewerkt.* Leiden: E. J. Brill.

ページ数・サイズ：1047pp, 16X23cm

オランダ人研究者クリンケルトの編集した「マレー語（ジャウィ表記、ローマ字表記）＝オランダ語」辞書。上記のマルスデンやウィルキンソンの辞書同様、古くから定評のある辞書のひとつである。

Ismail bin Dahaman and Manshoor bin Haji Ahmad. 2001. *Daftar Kata Bahasa Melayu, Rumi-Sebutan-Jawi.* 2vols. Kuala Lumpur: Dewan Bahasa dan Pustaka.

ページ数・サイズ：vol.1 (A-K, 838pp) vol. 2 (K-Z, 728pp), 16.5X24cm

昨年マレーシアで出版された「マレー語（ローマ字表記＝ジャウィ表記）」辞書。単語の配列はローマ字のアルファベット順である。ただし、単語の意味の説明はなく、ただローマ字表記と「現代マレーシアのジャウィ表記」とが対照されているだけである。

VI. マレーシアおよびシンガポールの本屋案内

篠崎香織（東京大学大学院）

本稿では、ジャウィ文書関連の図書、雑誌やジャウィソフトなどを購入できる書店の他、イスラム関係の図書や、マレー語図書、またマレーシアおよびシンガポールを初めとする東南アジア地域に関する研究書が充実している書店について紹介する。

1. マレーシア

(1) ジャウィ図書が充実している書店

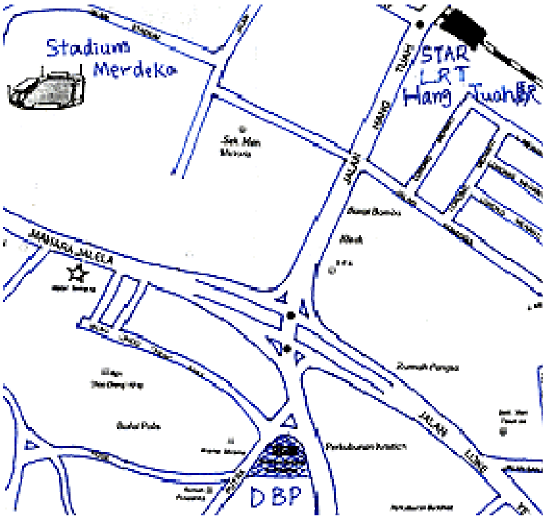
・Erfan Hj.M.A. Ghani

『ジャウィ文書研究会ニューズレター』第 3 号、pp.8-10 で新井和広氏によって紹介されたジャウィ・入力ソフト「ジャウィ・ライター」はここで購入が可能。Putera LRT あるいは Star LRT の Masjid Jamek 駅から Jalan Melayu を通り、Jalan Masjid India に出て右手建物 Wisma Yakin2 階。徒歩 2-3 分。

15A, Tingkat 1, Wisma Yakin,
Jalan Masjid India, 50100, Kuala Lumpur
Tel: (6)03-26988495/ 03-26933880/ 03-26912645
Fax: (6)03-26914489
URL: http://www.darulnuman.com
e-mail: emag@darulnuman.com

なお、この他にも Jalan Tuanku Abdul Rahman 沿いにマレー語図書やジャウィ図書を扱う書店がいくつかある。ジャウィ・ライターを置いている書店もあり、店によって値段がまちまちだが、RM40-55 程度で購入可能。

・Kedai Buku Koperasi DBP（Dewan Bahasa dan Pustaka）



DBP は、マレー語の発展促進を目的とした機関。ジャウィ関連書物も豊富。Putera LRT, Pasar Seni 駅からタクシーで約 5-10 分。Star LRT, Hang Tuah 駅から Jln Hang Tuah を南に約 600m。

Dewan Bahasa dan Pustaka,
Jalan Wisma Putra, 50926 Kuala Lumpur
Tel : (6)03-2481011

支店：Galeri Buku DBP,

No.13 & 14, Paras 1, Blok F,
Pusat Bandar Damansara, 50490, Kuala Lumpur.
Tel : (6)03-2547562

(2) 英語の研究書が豊富で、マレー語図書も充実している書店

・MPH

Putera LRT の Bangsar 駅から南に約 1km のところに位置するショッピング･モール Mid Valley Megamall 地上階にある大型書店。一般交通機関は Bangsar 駅から Intrakota5 番のバスが利用できるが、タクシーを使用したほうが便利。

Lot GJA1, Ground Floor, Mid Valley Megamall, Mid Valley City,
Lingkaran Syed Putra, 59200 Kuala Lumpur.
Tel : (6)03-2938 3800
URL: http://www.mphonline.com/welcome/welcome.cfm

・紀伊国屋

ペトロナス・ツインタワーのふもとにあるショッピング・センターSuria KLCC 内にある大型書店。Putera LRT の KLCC 駅で下車。

Kinokuniya Bookstore, Lot 406-408 & 429-430
Level 4,Suria KLCC, Kuala Lumpur City Centre
50088 Kuala Lumpur
Tel: (6)03-21648133, Fax: (6)03-21619133

・マラヤ大学図書購買部（Pekanbuku, Universiti Malaya）

マレーシア関連図書の品揃えは上記二店の大型店に匹敵。一般交通機関を利用する場合、Putera LRT の Universiti 駅で下車し、同駅発の大学行きの循環バス（15-30 分毎）に乗り、メイン・ライブラリー(Perpustakaan Utama)前で下車。道をはさんだ向かい側の建物 Perdanasiswa の地上階。営業時間は 5 時半まで（断食月は 4 時まで。）

Pekanbuku, Universiti Malaya, 50603 Kuala Lumpur
Tel: (6)03-7956 5000/ 5425, Fax: (6)03-7956 3246

(3) その他

・ Popular Books（大衆書局）

教科書類も扱う同書店は、マレー語を母語としない学生のためのマレー語学習関連図書が豊富。市内各地にあるが、チャイナ･タウンの支店を紹介しておく。地図上星を記した部分が所在地。
Putera LRT の Pasar Seni 駅
から徒歩約 3 分。

・The Specialist Bookshop

主に英文のイスラム研究の専門図書を置いている。Suria KLCC にある。

321B, Level 3, Suria KLCC, 50088, Kuala Lumpur.

Tel: (6)03-21663433

２．シンガポール

(1) 大型書店

以下の書店では、マレー語やジャウィ関連図書はほとんどないが、英文書籍が豊富であり、東南アジア研究関連図書を入手するには非常に有用である。

・紀伊国屋　シンガポール本店

高島屋に入っている大型書店。MRT の Orchard 駅から徒歩約 3 分。

391 Orchard Road Ngee Ann City #03-10/15

Takashimaya Shopping Centre Singapore 238872

Tel: (65)6737-5021 Fax: (65)6738-0487

http://www.kinokuniya.com.sg/cgi-bin/e-site/cgi-bin/index.pl

・Select Books

東南アジア関連図書を扱う専門書店として有名。Tanglin Shopping Centre にある。MRT の Orchard 駅から Orchard Road を西に徒歩約 5 分。日曜定休。

19 Tanglin Road #03-15,

Tanglin Shopping Centre, Singapore 247909

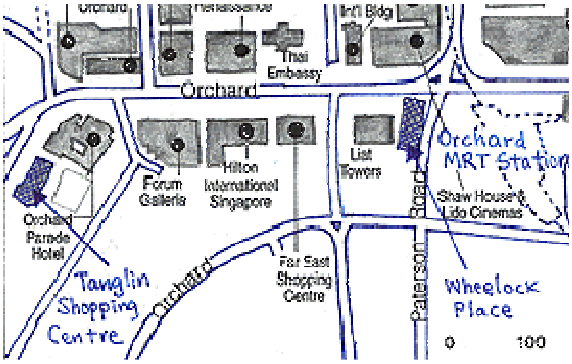
Tel: (65) 6732 1515, Fax: (65) 6736 0855

e-mail Contacts

Orders: orders@selectbooks.com.sg

Inquiries: info@selectbooks.com.sg

URL: http://www.selectbooks.com.sg/



・Borders

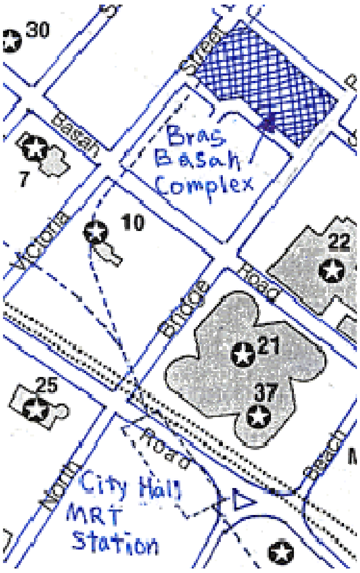
MRT の Orchard 駅から徒歩 1 分。

#01-00 Wheelock Place

501 Orchard Road, Singapore, 238880

Tel: (65) 6235.7146　Fax: (65) 6235.4981

http://www.bordersstores.com/index.jsp?tt=gn



(2) 古本屋

Bras Basah Complex は、古本屋のテナントがたくさん入っていることで有名。主に扱っているのは華語の古本だが、マレー語の古本もあるかもしれない。MRT の City Hall 駅から徒歩約 3 分。

このニューズレターはジャウィ文書研究会の記録、および、ジャウィ文書研究に役立つ情報提供を目的としており、研究会出席者に会場で配布しています。研究会に出席できない方でこのニューズレターの入手を希望される方は、希望する号を明記し、あて先を記入し、160 円切手を貼った A-4 サイズ返信用封筒を同封の上、お申し込みいただければ、郵送いたします。なお、研究工具や資料、文献の紹介、研究報告など、投稿を希望される方は、事務局にご連絡ください。

ジャウィ文書研究会ニューズレター　第 4 号

（2002 年 7 月 12 日印刷）

2002 年 7 月 13 日発行

発行者：ジャウィ文書研究会事務局

電話:03-3238-3697　Fax: 03-3238-3690

上智大学アジア文化研究所　川島緑研究室

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町 7-1

e-mail: midori-k@sophia.ac.jp